

国天然記念物で環境省のレッドリスト（絶滅危惧ⅠA類）にも記載されている淡水魚「イタセンパラ」を淀川に「復活」させる計画を進めている国土交通省などは13日、新たにイタセンパラを府内の淀川に放流したと発表した。

淀川のイタセンパラは河川工事や外来魚の増加で激減し、平成18年以降は1匹も確認できなくなっていた。このため、国交省などは21年秋に500匹を放流したが、23年春の調査では個体は確認できなかった。台風による急激な増水などが原因とみられる。

新たな放流は今年10月、国交省などが実施。急激な増水の影響を受けにくく、イタセンパラの成育に適し

イタセンパラ復活を

府内の淀川に再度放流

今年10月、国交省など

ているとされる水位の変動が適度にあるポイントを選び、人工繁殖させた雌雄の

成魚各250匹を放した。マニアや業者による密漁を防ぐため、詳しい場所や放流数は公表していない。今後は府警と同省近畿地

方整備局、府水生生物センターが協力して監視などに当たる。放流後の生息数の変化なども引き続きモニタリング調査するという。

淀川イタセンパラ検討会の小川力也座長は「繁殖がうまくいき、毎年淀川で泳ぐ姿が見られるようになってほしい」と話している。



淀川に放流されるイタセンパラ
(国土交通省近畿地方整備局提供)